

# 学術情報処理センターだより (4)

## 国際協力

平成13年度から学術情報処理センターは、科学技術共同開発センターや理工学部などと協力して、インドネシア共和国への情報関連技術に関して、国際協力事業団(JICA)による支援事業に参加している。研修生の受け入れや短期専門家の派遣などである。支援対象校には、ロボットコンテストで有名なスラバヤ電子工学ポリテクニクも含まれている。筆者は昨年8月と本年3月に、スラバヤ電子工学ポリテクニクを含むインドネシアの幾つかの大学等を訪問して、調査及び支援の機会を得ることが出来た。

支援内容の中で、情報基盤の整備、特に情報基盤を運営する人的管理組織の整備が含まれている。国際協力の重要な点は、支援事業が終わった後に、自力で業務を続ける基盤を整備することである。そのためには、管理運営に関わる人の教育が最も重要な要素となる。中でも、障害を乗り越えるために足腰を鍛える教育、失敗から学ぶ教育が必要である。

現地で調査してみると、佐賀大学が10年ほど前に、学内ネットワークを整備しようとして悪戦苦闘していた頃の記憶が甦る。ハードウェア・ソフトウェアの整備だけでなく、組織としての情報基盤整備の合意を得ることや、管理組織を整備することなど、佐賀大学が辿った、ネットワーク基盤整備の成功と失敗の経験が支援に生きると思う。一方、人的体制などで、インドネシアの大学等のほうが柔軟で強力な運営体制の部分も多い。こうしてみると、国際協力・支援と言いながら、実は、自分たちの失敗を検討し、改善の方向を検討するという意味で、我々の大きな利益になるであろう。このような機会を得ることができたことを感謝している。

副センター長 只木進一